

第2学年1組

体育科学習指導案

児童数 男子 16名 女子 10名 計 26名

指導者 宮野 陽子

1 単元名 ぼくたちの遊園地「はとっ子ランド」でエンジョイ！（表現リズム遊び）

2 単元について

(1) 運動の特性

本単元は題材になりきって動いたり軽快なリズムに乗ったりして踊ることをねらいとしている。「リズム遊び」では、リズムに乗って弾むだけでなく、友達と動きを合わせることで、楽しく踊ることができる。「表現遊び」では2年生の子供たちにとって、具体的で変化のある動きをとらえやすい遊園地を題材に取り上げる。遊園地の乗り物は、回ったり、スピードが変化したり、後ろや上下に進んだりするなど、様々な動きをとらえ子供たちが自由に想像しながら表現することができると考える。

(2) 指導内容の系統性

	1・2年生	3・4年生	5・6年生	中学1・2年生
	表現リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス
技能	次の運動を楽しく行い、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ることができるようにする。 ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴をとらえ全身で踊ること。	次の運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現したりリズムの特徴をとらえたりして踊ることができるようにする。 ア 表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりして踊ること。	次の運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現したり踊りの特徴をとらえたりして踊ることができるようにする。 ア 表現では、いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ること。	次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流ができるようにする。 ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。
	イ リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。	イ リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊ること。	イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。	イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。 ウ 現代的なりズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ

				て、リズムに乗って全身で踊ること。
態度	運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようとする。	運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく練習や発表をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようとする。	運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合い助け合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりすることができるようとする。	ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
思考 ・ 判断 <small>(中学校は知識を含む)</small>	簡単な踊り方を工夫できるようにする。	自己の能力に適した課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。	自分やグループの課題の解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。	ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

(3) 児童の実態

本学級の子供たちは、体を動かすことが大好きである。また4月の校外学習では1年生と一緒に遊園地で遊んだり、家族で遊園地に行ったりして、全員の子供が遊園地で遊んだ経験がある。子供たちは遊園地の乗り物を多く知っており、乗った経験もあることから、楽しんで表すことができると考える。以下は、子供たちのアンケート結果である。

1 体育の授業は好きですか。	好き 26人	ふつう 0人	嫌い 0人
2 マットや跳び箱等の運動は好きですか。	好き 21人	ふつう 4人	嫌い 1人
3 走ったり跳んだりする運動は好きですか。	好き 22人	ふつう 4人	嫌い 0人
4 水泳学習は好きですか。	好き 25人	ふつう 1人	嫌い 0人
5 ドッジボールや鬼ごっこなどのゲームは好きですか。	好き 24人	ふつう 1人	嫌い 1人
6 リズムに合わせて踊ったり、何かになりきったりすることは好きですか。	好き 16人	ふつう 5人	嫌い 5人

アンケート結果から、体育の授業は好きだが、何かになりきったりリズムに合わせて踊ったりすることに抵抗感をもっている子供がいることが分かった。嫌いと答えた子供の理由は、「何をしてよいのか分からないから」(1人)「リズムがとれなくなり、分からなくなるから」(2人)「踊るの

が好きではないから」（1人）「踊るのが恥ずかしいから」（1人）というものだった。このことから、どんな動きをするのかをはっきりさせること、リズムをとるのが容易なリズム遊びにすること、恥ずかしさを感じないような手立てをとることが課題であると考えた。また、好きと答えた子供の理由は、「踊るのが楽しいから」「みんなと踊ると気持ちがよいから」「体を思いっきり動かせるから」「みんなに見せたいから」等であった。友達と踊る楽しさや、体を大きく動かす気持ちよさを感じている子供が多い。

本単元を通して、友達と調子を合わせて踊ったり、遊園地の乗り物を体全体で表現したりすることで、誰とでも仲よく踊る楽しさを感じ、リズムに合わせて踊ったり、何かになりきったりすることが好きという子供が増えてほしいと願っている。

3 研究主題との関連

・児童の実態を把握し、仲間と共に運動に熱中していく単元構想の工夫（視点1－①）

＜1年生を招待する「はとっ子ランド」＞

子供たちは、これまでの経験から1年生と仲よく遊んだり、優しくお世話をしたりしている。運動会では1年生と一緒に挑戦する団体競技に向けて、よいところを見せたいと思い、お手本になつたり準備や片付けをてきぱき行つたりして、2年生らしさを發揮することができ、自信をもつていった。そこで、リズム遊びや表現遊びに親しんだ第一次の終わりに、「上手になってきたから1年生に見せてあげよう」と投げかける。第一次では自信をもって踊ることができなかつた子も、できるようになってきている自分を認められたことに喜びを感じ、「1年生にもっと上手になった自分を見せたい」という意欲をもつであろう。子供たちが「見てもらいたい」「1年生と一緒に踊りたい」という気持ちをもつて第二次に臨むことができるようになつた。また、子供たちは、友達だけでなく1年生にも伝わるように表現するためには、体全体を使って大げさに動かなければならないことに気が付くだろう。1年生と一緒に楽しんで踊ることを考えながら、それぞれの乗り物の特徴をとらえて進んで踊ることができるのではないかと考える。そして、1年生を招待して一緒に踊ることで、より一層、何かになりきって踊ることは楽しいと感じるようになってほしい。

＜リズムに乗って踊る楽しさを味わうリズム遊び＞

本単元では、リズム遊びを毎時間の始めに行い、十分に心と体をほぐしてから、表現遊びを行う。リズム遊びは、軽快なリズムに乗って踊ることをねらいとする。昨年度は、単元を通して毎時間同じリズム遊びに取り組んだ。リズムに合わせてストレッチをしたり、様々な動きを取り入れながら友達とハイタッチをしたりして、友達と踊る楽しさを味わうことができた。しかし、なかなかリズムに乗って踊ることができず、難しいと感じた子供もいる。そこで今年度は、昨年度の経験を生かし、毎時間同じリズム遊びをするのではなく、手拍子から始め、徐々に膝の動きや腰の動きを組み合わせていくなど、簡単な動きから少し難しい動きへとスモールステップで取り組むようにしたい。「リズムに乗れない・分からぬ」と感じている子供も、スモールステップで取り組むことで、できる喜びや、友達と合わせて踊る楽しさを味わうことができると考える。その際には、体を伸ばしたり、縮ませたりするなど、様々な動きを取り入れて、踊ることができるようになつた。第二次からは、曲の中で自由に踊る時間を設ける。これまでに経験した動きを取り入れた踊りや即興的な踊り、友達の動きを真似ての踊り等、自分でリズムに乗りながら体全体で踊る姿を期待している。

・運動の特性を踏まえ、身に付けたい動きを明確にした指導内容（視点1－②）

＜踊りのヒントとなる2種類のカード＞

「遊園地の乗り物になりきる」とは、乗り物のイメージに没入し、体全体、目線、表情で表現することであると考える。体全体で思いっきり表現するためには、それぞれの乗り物のイメージを十分に膨らませる必要がある。単元の始めに、遊園地の乗り物の映像を見ながら真似をしたり、音で表した

りする。そのイメージをカードにしておくことで（イメージカード）、困ったときや悩んだときに子供たちがヒントとして使えるようにしておく。また、スピードや進む方向を変化させながら踊ることができるように、具体的に声かけをしていきたい。第二次では、遊園地の四つの乗り物になりきって急変する動きを入れて踊ることができるようにならせる。様々な動きを見付けたり、見付けた動きを変化させたりできるように、回転する速さが変化するコーヒーカップ、進む速さが変化するジェットコースター、進む方向が変化するゴーカート、回る高さが変化するひこうきの四つの乗り物を取り上げる。また、動きの変化を考えるためのヒントになる「大変だ！カード」を用意し、「大変だ！急カーブだ！」や「大変だ！機械が暴れ出したぞ！」等、急変する場面を提示する。急変する場面を取り入れることで、動きに変化をつけて踊ることができるようになる。さらに体全体を使って踊ることができるよう「大大大変だ！カード」を示す。「大大大変だ！もっと大きなカーブだ！」など、さらに動きを急変させて踊ることができる場面を提示する。体の中心から、できるだけ遠くに手足を動かし体全体を使って踊ることができるようになってほしい。

このように、2種類のカードをヒントとしながら、多くの動きを見付け、それらを選んだり組み合わせたりしながら踊ることで、自分たちが楽しむことができる「はとっ子ランド」を創り上げていくようになる。

＜動きの特徴をとらえる○○タイム＞

本単元では、「どんな動きをしていいのか分からない」という子供がいる実態を踏まえ、身に付けていたり動きを子供が分かるように指導する必要がある。そこで、「なりきりタイム」「まねっこタイム」「エンジョイタイム」の三つの時間を設定する。なりきりタイムは、遊園地の乗り物になりきって様々な動きを見付けながら踊る時間である。教師の言う様々な話に合わせて即興で動いたり、ひとまとまりのお話にして踊ったりして、それぞれの乗り物の特徴をとらえた動きを知ることができるようになる。その際には、「天井まで届くくらいに上まで登ろう」「もっと速く回ってみよう」等、具体的に声をかけることを大切にしたい。まねっこタイムは、友達の踊りを見たり、一緒に真似をして踊ったりする時間である。友達の踊りを見るだけでなく、真似をして踊ってみることで、動かしている体の部分や動かし方が実感できると考える。エンジョイタイムは、好きな乗り物を選び、まねっこタイムで見た友達のよい動きを取り入れてもう一度乗り物になりきって踊る時間である。なりきりタイムのときの動きと比べて、もっと手が伸びていたり、高くジャンプしていたりするなど、体全体を使って踊ることができるようになる。この三つの時間を設定することで、何をしていいのか分からない子供も、「イメージカード」や「大変だ！カード」を参考にまずは自分でやってみて、その後友達の動きを見て更によい動きを知り、もう一度その動きを取り入れて踊るという段階を踏む中で、動きの幅を広げたり動きの質を高めたりして、なりきって踊ることができるようになる。

＜体全体を使うことを意識する振り返りカード＞

本単元を通して、子供たちが「この踊りができるようになった」「この動きのポイントが分かった」等、できる喜びを感じられるように、シールを利用した振り返りカードを用いる。毎時間の学習課題を振り返るとき、自分の体で動かすことができた部分にシールを貼っていく。最初は手や足だけを動かしていた子供も、単元が進むにつれて腰や首も動かすことができるようにならせる。体のいろいろな部分にシールを貼ることを目標に、体全体を使うことを意識して踊ることができるようになってほしい。このカードを活用することで、単元を通して子供たちが目当てをもって取り組み、できる喜びを味わうことができるようになる。

・関わり合い、認め合う学習形態の工夫（視点2-②）

<互いのよい動きを取り入れながら踊る乗り物コーナー>

第二次では、動きの変化が期待できる四つの乗り物（コーヒーカップ、ジェットコースター、ゴーカート、ひこうき）を取り上げたコーナーを作る。そのコーナー毎では、それぞれの乗り物の特徴をとらえて動き、ひとまとまりのお話にして踊ることを目指していく。グループで、乗り物コーナーを一つずつ体験していく中で、もっと「速く回ってみよう」「低いところから高いところに行くようにしてみよう」等と、声をかけ合いながら、乗り物になりきっていくのではないかと考える。コーナーに分かれて様々な動きをして、提示された「大変だ！」の場面に合わせて動きを急変させて踊ったり、「大変だ！」の場面を自分たちで考えたりしながら楽しんで乗り物になりきってほしい。また、第三次での1年生と踊ることを考え、2年生同士で踊ってみることで、体全体を使って踊る大切さに気付いてほしい。

また、四つのコーナーに分かれることで、他のグループの友達とぶつかることなくのびのびと踊ることができるスペースを確保するよう安全面へ配慮をしていきたい。

<友達と調子を合わせるリズム遊び>

リズム遊びでは、触れ合いながら友達と一緒にリズムに乗って踊る楽しさを味わってほしいと考え、友達とハイタッチをしたり、背中を合わせて踊ったりする場面を設定する。友達と一緒に踊ることで、踊ることに恥ずかしさを感じている子供も踊ることができ、楽しさを感じることができると考える。

4 単元の目標

- ・乗り物の特徴をとらえ体全体で踊ることができる。 (技能)
- ・表現リズム遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、安全に気を付けたりすることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・簡単な踊りを工夫することができるようとする。 (思考・判断)

5 単元の評価規準

運動の技能	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	
単元の評価規準	・遊園地の乗り物の特徴をとらえ体全体で踊ることができる。	・きまりを守って、表現リズム遊びに進んで取り組むとともに、誰とでも仲よく踊ろうとしたり、運動する場の安全に気を付けようとしたりしている。	・表現リズム遊びの基本的な動き方を知るとともに、動きを広げるためのいろいろな動きを見付けたり選んだりしている。 ・乗り物の特徴を知りそれに合った友達のよい動きを選んだり見付けたりしている。
活動に即した評価規準	①遊園地の乗り物になりきって体全体で踊ることができる。 ②動きに高低の変化や速さの変化を付けて踊ることができる。	③いろいろな乗り物になりきって踊ることに進んで取り組もうとしている。 ④きまりを守り、だれとでも仲よく踊ろうとしている。 ⑤友達とぶつからないように安全に気を付けようとしている。	⑥乗り物の特徴をとらえた具体的な動きを知り、いろいろな動きを選んだり見付けたりしている。 ⑦友達のよい動きを見付けている。

7 本時の学習（5／7時）

(1) 目標

- ・遊園地の乗り物になりきって体全体で踊ることができる。 (技能)
- ・きまりを守り、だれとでも仲よく踊ろうとしている。 (関心・意欲・態度)

(2) 展開

学習活動	※本時では主として、技能を評価する。 指導上の留意点（◆評価）
1 音楽に合わせてリズム遊びをする。 (7) <ul style="list-style-type: none"> ・この音楽で思いっきりジャンプをすると、かっこいいよ。 ・○○ちゃんの動きは、手がしっかりと伸びていて、足も動いているから、おもしろいな。 ・友達とハイタッチをすると気持ちがいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽快なリズムに乗って、ジャンプをしたりスキップをしたり、体をねじったり回したりするなど、様々な動きをテンポよくつなげて踊るようにする。 ・曲の中に自由に踊る時間を設け、体全体を使っている動きやおへそでリズムをとっている動きを広めるようにする。
2 本時の課題を確認し、見通しをもつ。 (3) <ul style="list-style-type: none"> ・手を広げると体全体を使って踊れそうだぞ。 ・体のいろいろなところを動かそう。 ・大きく伸びたり縮んだりしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に踊ることができるようにきまりの確認をする。 ・体全体を使って踊るには、どのようにしたらよいか考えさせる。
体ぜんたいをつかっておどろう	
3 なりきりタイムに取り組む。 (10) <ul style="list-style-type: none"> ・「大変だ！岩だ！」では、大きな岩をよけながら進んで行くために、曲がりながらジャンプをしよう。 ・ただのジャンプより、体を縮ませてからジャンプしたら、とても高いところに行った感じがするよ。 ・手も一緒に広げてみよう。 ・ジェットコースターのときに、手を回しながらカーブして、体全体を使うように踊ったら、すごく勢いがあって楽しかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体全体を使って踊っているグループの動きを紹介し、体全体を使って踊るイメージをもつようになる。 ・それぞれの乗り物の特徴をとらえながら踊ができるように、四つの乗り物コーナーをローテーションする。 ・進む方向や速さ、高さを変えている動きを称賛し広めていくようにする。 ・「大変だ！カード」の他に「大大大変だ！カード」を提示することで、より体全体を使って踊ることができるようにしたり、様々な動きを見付けられるようにする。 ・まねっこタイムでは、体全体を使って踊っているグループを取り上げ、みんなで踊りを見たり真似をしたりすることで、体全体を意識して踊ができるようにする。 ・友達のよい動きとその理由を聞き、遊園地の乗り物になりきるために、体全体を使うことが大切であることを引き出すようにする。 ・エンジョイタイムでは、グループではなく自分の好きな乗り物のコーナーを選び、まねっこタイムで見付けた動きを取り入れて、体全体を使うことをさらに意識して、踊るよう促す。
4 まねっこタイムに取り組む。 (10) <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんは、体全体を使っていたから上手だよ。 ・体を小さくしたり、ジャンプをしてたりしていると、ジェットコースターのコースに岩がたくさんあった様子がよく分かったよ。 	
5 エンジョイタイムに取り組む。 (7) <ul style="list-style-type: none"> ・足だけじゃなくて、○○さんのように、手も大きく動かすとよいことが分かったから、一番好きな乗り物のコーナーに行ってやってみよう。 ・なりきりタイムよりも上手に踊ることができたよ。 	
6 振り返りを行う。 (8) <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、手を大きく広げたし、足も遠くに伸ばしたから体全体で踊ることができたよ。とても楽しかったよ。 ・体全体を使うと、気持ちよかったです。また、みんなで乗り物になりきりたいな。 	<p style="text-align: center;">◆技能 乗り物になりきって体全体で踊ることができる。 (観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使用し、体のどの部分を動かしたかを振り返るようにする。

(3) 視点 3回の○○タイムの設定やグループ活動は、子供たちが体全体で遊園地の乗り物を表すのに効果的であったか。

「運動に熱中する子供」育成のための単元構想図

2年

ぼくたちの遊園地「はとっ子ランド」でエンジョイ！ 単元構想図

終末で期待する関わりの高まり
・きまりを守って、誰とでも楽しくで踊り、より友達と仲よくなる。

○○さんは、右や左に動いて体全体を使っているから、真似をしてみよう。

○「かかわる」ための支援

- ・友達と触れ合いながら踊るリズム遊び
- ・それぞれの乗り物の特徴をとらえる乗り物コーナー
- ・1年生を招待するはとっ子ランド

・体を小さくしてから、思いつきジャンプをすると、とても高いところに行なったように感じることが分かったよ。

○「わかる」ための支援

- ・体全体を使っている動きを広めたり、具体的な動きの言葉かけ
- ・友達の動きを見合い真似をする場の設定
- ・ヒントとなる2種類のカード（イメージカード、大変だ！カード）

おへそでリズムをとると、踊ることができたよ。
友達の動きを見て、ジェットコースターになりきったよ。

○「できる」ための支援

- ・毎時間のリズム遊びの継続
- ・友達の動きを見て参考にしながら踊る三つの○○タイム

○単元の見通しをもつ
・安全に楽しく踊るためにきまりを確認する。
・遊園地の乗り物の映像を見たり音楽を聞いたりして、イメージを十分に膨らませる。

リズムに乗って踊ってみたい。遊園地の乗り物になりきりたい。

<単元の目標>

- ・乗り物の特徴をとらえ、体全体で踊ることができる。（技能）
- ・表現リズム遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、安全に気を付けたりすることができる。（態度）
- ・簡単な踊りを工夫することができるようになる。（思考・判断）

生涯スポーツ

楽しさ

体育的学力の形成

具体的な「運動に熱中する子供」の姿

乗り物になりきつて
体全体で踊る

指導基盤

<本単元に臨む実態>

- ・リズムに乗って踊ったり、体全体で表現したりすることができる。
- ・進んで乗り物になりきったり、だれとでも仲よく安全に踊ったりしようとする。
- ・いろいろな動きや友達のよい動きを見付ける。

<本学級集団の特徴・機能>

- ・体育の授業が好きで、進んで体を動かす。
- ・走ったり、ボールを投げたりすることは好きだが、自由に動いたり踊ったりすることは、動きが分からなかつたり恥ずかしいと感じたりして、体全体を使って動くことを苦手と感じている子がいる。
- ・友達の上手なところを見付けたり、温かい言葉をかけたりすることができます。

授業1時間あたりの運動従事時間の目安

20分／45分

マキシマム

乗り物になりきつて変化を付けて体全体で踊ったり、自分で動きを考えたりすることができる。（評価）

乗り物になりきつて変化を付けて体全体で踊ったりすることができる。（評価）

ミニマム

乗り物になりきつて体全体で踊ることができる。（評価）

言語活動の構想

- 乗り物の特徴や動きのコツを表すオノマトペ
 - ・乗り物のイメージを表すネーミング（ガタガタ、くるくる等）
 - ・リズムに乗るための言葉かけ（ひねって、パッ等）

○三つの○○タイム

- ・自分でお話を合わせて自由に踊ってみる場の設定（なりきりタイム）
- ・友達の上手な動きを見付けて真似をする場の設定（まねっこタイム）
- ・友達の動きを参考にもう一度踊る場の設定（エンジョイタイム）

○グループ活動

- ・様々な動きを工夫できる乗り物コーナー（動きが急変する場面を様々な動きを取り入れて踊る）
- ・1年生を招待するはとっ子ランド（体全体でなりきって踊る）

○体全体で表現

- ・体全体を使って踊ることができるような具体的な言葉かけ（「次は右へ！」「おへそを動かしていくいよ！」等）